

○計画期間：平成25年12月～平成30年3月（4年4月）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成26年度終了時点（平成27年3月31日時点）の中心市街地の概況

本市は、平成20年7月に国の認定を受けた「盛岡市中心市街地活性化基本計画」の計画期間終了後、新たに「第2期盛岡市中心市街地活性化基本計画」を策定し、平成25年11月に認定を受けた。第2期計画においては、3つの基本方針「商店街の賑わいや魅力を楽しむ中心市街地」、「暮らしや便利さを感じる中心市街地の形成」、「盛岡の歴史や文化に触れる中心市街地の形成」に基づき、全60事業の実施により、さらなる中心市街地の活性化を目指している。

本市の中心市街地は、景気低迷による小売年間販売額の低下のほか、郊外型大規模小売店舗の影響や事業所数の減少などによる吸引力の低下が見られているが、県都盛岡の中核として、地域の持続的な発展の牽引役を強く期待されている地区であり、早急に商業活性化策や観光・歴史・文化の振興策及びコンパクトで利便性の高い都市機能の充実が求められている。

平成26年度は、第1期計画の総括で課題となった回遊性の向上を、平成25年度に引き続き目指していくものとし、新規事業として「ポータルサイトと連携した新地域カードシステム事業」、「盛岡駅西口バス乗場整備事業」、「大通地区優良建築物等整備事業」を新たに計画に位置づけ、交流人口の増加を図るとともに、回遊性の向上につなげるものである。

2. 平成26年度取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

平成26年度は、目標指標である盛岡市街地の宿泊観光客数が目標値を達成する数値となったほか、大通コアエリア周辺の居住人口及びもりおか歴史文化館の入館者数が増加しており、徐々に取組の成果が現れてきているものと評価する。

一方で、中心市街地の歩行者・自転車通行量については減少傾向にあり、未着手事業を着実に実行するとともに、中心市街地の回遊性向上に向けた取組について検討が必要と思われる。

今後は希望郷いわて国体あるいは北海道新幹線開業などが控えており、交流人口を一時的なものとしないうちにも市民総参加のおもてなし機運の醸成が必要であることから、まちづくりに関する様々な情報が市民及び事業者に行き届くように配慮願いたい。

また、国際リニアコライダーの実現を見据えたまちづくり、公共交通のあり方、PPPやPFI等民間活力を利用した開発等についても検討しながら中心市街地活性化基本計画に基づく盛岡市の将来像を官民が積極的に議論し、社会経済情勢の変化に対応した持続可能なまちづくりが推進されることを期待する。

II. 目標毎のフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
賑わいあふれる 中心市街地	中心市街地の歩行者・ 自転車通行量	48,332人 (H25)	52,000人 (H30)	45,419人 (H27)	②	②
賑わいあふれる 中心市街地	大通コアエリア周辺の 居住人口	5,202人 (H25)	5,400人 (H30)	5,262人 (H27)	②	②
訪れたいくなる 中心市街地	盛岡市街の 宿泊観光客数	50.0万人 (H22)	56.2万人 (H29)	69.5万人 (H26)	①	①
訪れたいくなる 中心市街地	もりおか歴史文化館の 入館者数	25.1万人 (H24)	27.0万人 (H29)	23.0万人 (H26)	③	③

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

「中心市街地の歩行者・自転車通行量」については、指標調査日の悪天候が影響したことに加え、ハード整備事業を中心に現時点での未実施の事業があることから、想定している効果が発現していないことで数値が低下したと推測される。

「大通コアエリア周辺の居住人口」については、居住利便性の向上や商店街の魅力向上に係る事業等による効果の発現途中であり、ゆるやかな増加傾向にはあるが、引き続き効果的な取組の実施が必要となる。今後は、平成27年完成予定の居住施設建設等により数値の増加が見込まれる。

「盛岡市街の宿泊観光客数」については、東北六魂祭等でのPR効果から夏祭り（盛岡さんさ踊り）の来場者が過去最高となったことや、平成25年度のNHKの連続ドラマの波及効果もあり、増加となったと推測される。実施予定のハード整備事業による観光施設の増加や、ソフト事業による観光客誘致促進効果により、継続して目標の達成を目指す。

「もりおか歴史文化館の入館者数」については、冬季間の入場者数が他の月に比べ少なく、全体としても目標値に到達していないことから、事業の実施効果が十分発現していないことが考えられるが、平成25年に比べ増加となっており、目標の達成に向けて引き続き年間を通じた情報発信に努める。

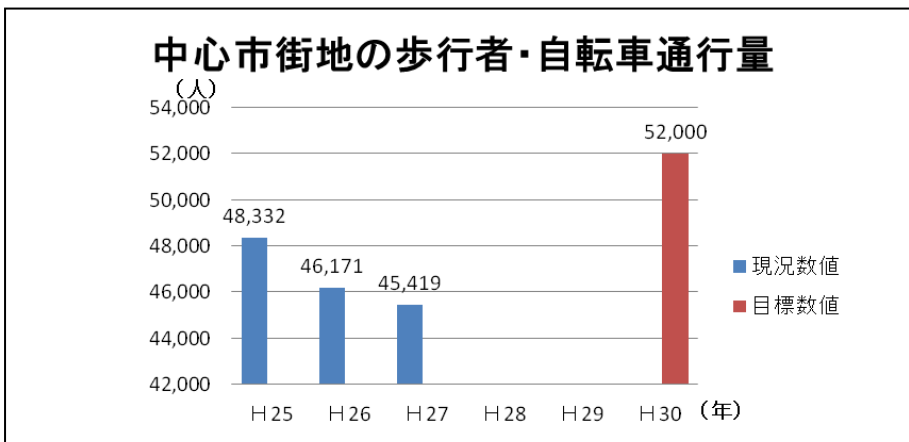
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回フォローアップの実施から変更はない。

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「中心市街地歩行者・自転車通行量」※目標設定の考え方基本計画P89～P93参照

●調査結果の推移



年	(人)
H25	48,332 (基準年値)
H26	46,171
H27	45,419
H28	
H29	
H30	52,000 (目標値)

※調査方法：歩行者・自転車通行量調査（毎年3月に実施）

※調査月：平成27年3月22日（日曜日）、23日（月曜日）

※調査主体：盛岡まちづくり株式会社

※調査対象：歩行者及び自転車通行者、2日間8地点（数値は加重平均）

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 盛岡バスセンター再整備事業（株盛岡バスセンターほか）

事業完了時期	平成28年度【未】
事業概要	現在の盛岡バスセンターを建替え、バスターミナル機能の強化を図るとともに、商業機能や公益的機能が充実した複合施設として再整備する。
事業効果及び進捗状況	資材費や労務費の高騰などにより、当初の計画に遅れが生じており、平成27年度は計画の見直しを含め関係団体と実質的な協議・調整を行い、早期の実施に努める。本事業の実施により、中心市街地歩行者・自転車通行量140人の増加が見込まれる。

②. (仮称) 岩手銀行旧中ノ橋支店 (赤レンガ) 活用事業 (株)岩手銀行)

事業完了時期	平成28年度【実施中】
事業概要	岩手銀行旧中ノ橋支店 (赤レンガ) を保存修理し、見学・展示等の施設として活用を図る。
事業効果及び進捗状況	事業は予定どおりに進捗しており、平成28年度に完成予定。本事業の実施により、中心市街地歩行者・自転車通行量106人の増加が見込まれる。

③. (仮称) 河南地区駐車場整備事業 (盛岡まちづくり(株)ほか)

事業完了時期	平成28年度【実施中】
事業概要	河南地区にある平面駐車場を立体化し、河南地区の商店街や核店舗である商業施設の利便性の向上を図る。
事業効果及び進捗状況	平成26年度は、商店街まちづくり事業 (中心市街地活性化事業) を活用して調査を実施しており、平成27年度は、具体的な設計等を進めていく。本事業の実施により、中心市街地歩行者・自転車通行量192人の増加が見込まれる。

④. 中央通二丁目地区優良建築物等整備事業 (優良建築物等整備事業) (盛岡市中央通二丁目地区再開発ビル建設協議会)

事業完了時期	平成27年度【実施中】
事業概要	土地の高度利用を図るとともに、防災性、省エネに配慮したマンションを建設し、まちなか居住の推進を図る。
事業効果及び進捗状況	事業は予定どおりに進捗しており、平成27年度に完成予定。本事業の実施により、中心市街地歩行者・自転車通行量158人の増加が見込まれる。

⑤. 八幡町地区優良建築物等整備事業 (優良建築物等整備事業) (八幡町再開発ビル建設協議会)

事業完了時期	平成26年度【実施中】
事業概要	土地の高度利用を図るとともに、介護機能付のマンションを建設し、まちなか居住の推進を図る。
事業効果及び進捗状況	事業者の事業計画 (資金計画、開発区域、用途等) の見直しにより、当初の計画に遅れが生じているが、早期完了に向けて助言、監督等を行う。本事業の実施により、中心市街地歩行者・自転車通行量58人の増加が見込まれる。

●目標達成の見通し及び今後の対策

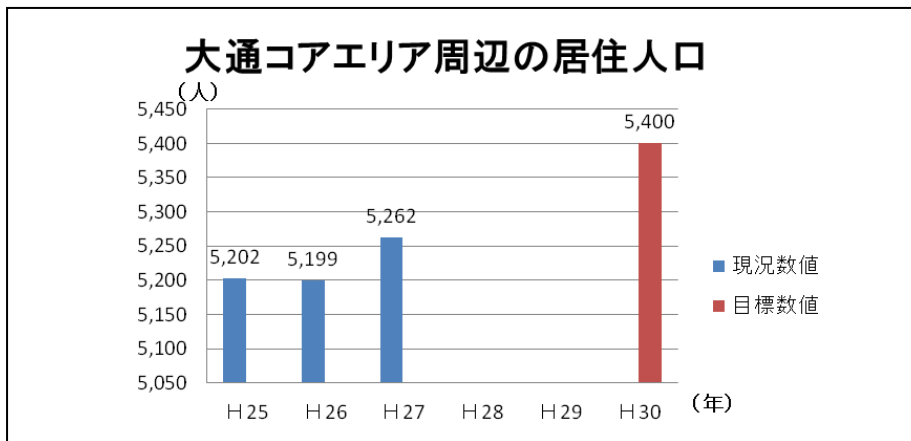
主要事業であるハード整備事業が実施中または未実施であることから、事業の効果が発現するのは、今後になることが見込まれる。一方、ソフト事業の商店街活性化事業や公共交通利用促進関連事業等は、計画どおり実施されているものの、歩行

者・自転車通行量が減少しており、今後ハード整備事業の実施により、効果が発現するものと推察される。

今後の対策としては、回遊性の向上を目的として、平成25年度、平成26年度にそれぞれ新規のソフト事業を実施していることから、これらの事業を効果的に実施していくことに加えて、盛岡バスセンター再整備事業などの主要事業及び優良建築物等整備事業等の新規ハード整備事業を着実に進めていくことで、目標達成を目指していく必要がある。

「大通コアエリア周辺の居住人口」※目標設定の考え方基本計画P93～P95参照

●調査結果の推移



年	(人)
H25	5,202 (基準年値)
H26	5,199
H27	5,262
H28	
H29	
H30	5,400 (目標値)

※調査方法：住民基本台帳

※調査月：平成27年4月（平成27年3月末の数値）

※調査主体：盛岡市

※調査対象：大通コアエリア（大通・中央通・内丸・大沢川原・菜園地区）の居住人口

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

- ①. 中央通二丁目地区優良建築物等整備事業（優良建築物等整備事業）（盛岡市中央通二丁目地区再開発ビル建設協議会）

事業完了時期	平成27年度【実施中】
事業概要	土地の高度利用を図るとともに、防災性、省エネに配慮したマンションを建設し、まちなか居住の推進を図る。
事業効果及び進捗状況	事業は予定どおりに進捗しており、平成27年度に完成予定。本事業の実施により、大通コアエリア周辺の居住人口307人の増加が見込まれる。

●目標達成の見通し及び今後の対策

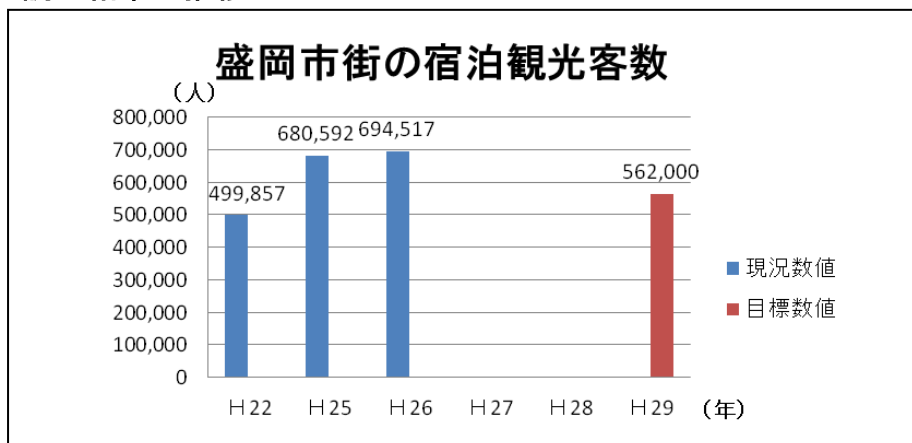
主要事業であるハード整備事業の完了がまだ先であり、事業効果は今後発現していくものと推測される。

今後の対策としては、継続して居住環境の整備や商店街の魅力向上につながる事

業を実施していくほか、優良建築物等整備事業等の新規ハード整備事業についても着実に進めていくことで、目標達成を目指していく必要がある。

「盛岡市街の宿泊観光客数」※目標設定の考え方基本計画P96～P98参照

●調査結果の推移



年	(万人)
H22	50.0 (基準年値)
H25	68.1
H26	69.5
H27	
H28	
H29	56.2 (目標値)

※調査方法：宿泊施設からの回答を盛岡市が集計

※調査月：平成27年3月（平成26年1月～12月分の数値）

※調査主体：盛岡市

※調査対象：盛岡市街の宿泊施設

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. (仮称) 岩手銀行旧中ノ橋支店（赤レンガ）活用事業（株岩手銀行）

事業完了時期	平成28年度【実施中】
事業概要	岩手銀行旧中ノ橋支店（赤レンガ）を保存修理し、見学・展示等の施設として活用を図る。
事業効果及び進捗状況	事業は予定どおりに進捗しており、平成28年度に完成予定。本事業の実施により、盛岡市街の宿泊観光客数8,906人の増加が見込まれる。

②. 盛岡・八幡平観光圏整備事業（盛岡・八幡平広域観光推進協議会）

事業完了時期	平成26年度【実施中】
事業概要	盛岡・八幡平広域観光圏域内の関係団体での連携を強化し、滞在型の観光を展開することで、本市を含めた広域圏の魅力を向上させる。
事業効果及び進捗状況	予定どおり事業は進捗しており、盛岡・八幡平広域観光圏域内の宿泊客数の増加に伴い、盛岡市街への宿泊者数の増加にも結び付いている。本事業の実施により、盛岡市街の宿泊観光客数35,990人の増加が見込まれる。

③. 夏祭り（盛岡さんさ踊り）の開催（盛岡さんさ踊り実行委員会）

事業完了時期	平成29年度【実施中】
事業概要	伝統芸能である「さんさ踊り」を地域資源として活用し、市内外からの多くの観光客を迎えることにより、近隣の商店街の活性化及び市中心部の魅力の向上を図る。
事業効果及び進捗状況	予定どおり事業は進捗しており、来場者も増加傾向にあることから、盛岡市街への宿泊者数の増加にも結び付いている。本事業の実施により、盛岡市街の宿泊観光客数37,573人の増加が見込まれる。

●目標達成の見通し及び今後の対策

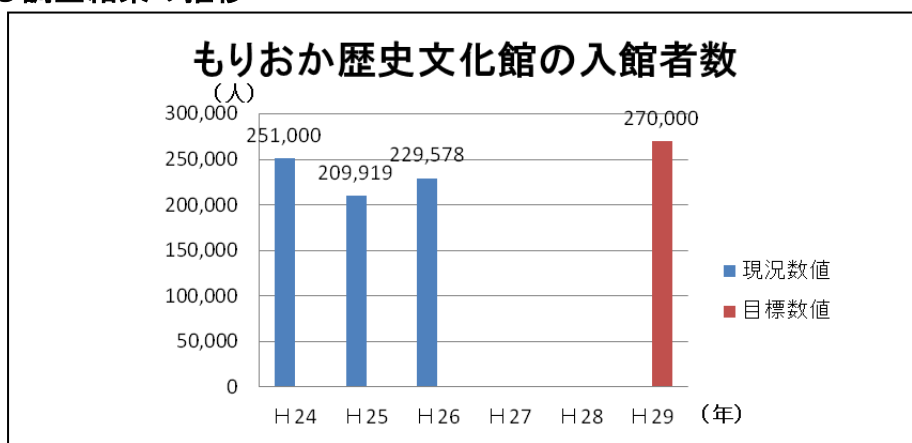
平成26年の盛岡市街の宿泊観光客数は、69.5万人と想定を大きく上回る数値となった。これは、夏祭り（盛岡さんさ踊り）の来場者が過去最高となったことに加えて、平成25年度のNHKの連続ドラマの波及効果が継続していることや、東日本大震災の影響で激減した外国人観光客が、震災前の水準に戻りつつあること等の要因が考えられる。

この数値は一時的な要因も含まれると考えられるが、盛岡おもてなし度UP事業の実施等により、観光客リピートや口コミなどによる観光客誘致促進を図ること、引き続き高い水準を維持できるように取り組むたい。

なお、平成25年の観光消費額単価は県外宿泊客で24,028円（24年度比87.1%）、県内宿泊客で16,249円（24年度比110.1%）となっており、ともに東日本大震災発生前の水準までには改善していない。

「もりおか歴史文化館の入館者数」※目標設定の考え方基本計画P98～P99参照

●調査結果の推移



年	(万人)
H24	25.1 (基準年値)
H25	21.0
H26	23.0
H27	
H28	
H29	27.0 (目標値)

※調査方法：もりおか歴史文化館への聞き取り調査

※調査月：平成27年3月（平成26年1月～12月の数字）

※調査主体：盛岡市

※調査対象：もりおか歴史文化館

平成 25 年フォローアップでは、H25 の入館者数を 287,001 人と報告しましたが、集計方法の誤りにより間違った数値が報告されていました。正しくは 209,919 人でしたので、本フォローアップより訂正します。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. もりおか歴史文化館教育普及・学芸事業（盛岡市・もりおか歴史文化館指定管理者）

事業完了時期	平成29年度【実施中】
事業概要	企画展や、学校等と連携した事業の実施により、盛岡城跡や周辺城下町魅力的な観光資源として機能させ、市民や観光客等の回遊による賑わいの創出を図る。
事業効果及び進捗状況	もりおか歴史文化館の入館者数は平成25年に比べ増加しているが、目標に向けて、引き続き事業の充実を図る必要がある。本事業の実施により、もりおか歴史文化館の入館者数12,550人の増加が見込まれる。

②. まちなか情報センター運営事業（盛岡市・もりおか歴史文化館指定管理者）

事業完了時期	平成29年度【実施中】
事業概要	中心市街地をはじめとする市内のイベントや商店街等に関する情報を提供し、中心市街地のまち歩きの拠点とすることにより、市民や観光客の回遊性を高め、中心市街地の活性化を図る。
事業効果及び進捗状況	もりおか歴史文化館の入館者数は平成25年に比べ増加しているが、目標に向けて、引き続き情報発信の拠点としての効果の充実を図る必要がある。本事業の実施により、もりおか歴史文化館の入館者数5,020人の増加が見込まれる。

●目標達成の見通し及び今後の対策

平成26年のもりおか歴史文化館の入館者数は、23.0万人と、平成25年に比べて約2万人の増加となった。

ただし、冬季間（12月から2月まで）の入場者数が10,000人を切っていること、また、歴史文化館周辺に位置する施設の平成26年の入込数が、「盛岡市観光情報プラザ」28,618人（25年29,388人）、「野の花美術館」5,806人（25年6,270人）、「啄木賢治青春館」41,507人（25年45,634人）と、平成25年度に比べ全体として減少しており、もりおか歴史文化館の入館者数はゆるやかな増加となつてはいるものの、取組による年間を通しての効果、及び周辺施設への波及効果の発現には至っていないものと考えられる。

今後の対策としては、引き続き効果の発現に向けて、もりおか歴史文化館教育普及・学芸事業を強化していくとともに、冬季観光イベントとの相乗効果により、近年増加している観光客の取り込みを強化し、中心市街地の回遊性を高めることで、通年を通した入館者数の増加を目指していく必要がある。